

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 藤平 康太

所属: B

記録日: 2017年 2月 3日

キーワード:

書く支援

【対象児の情報】

・学年 小学4年生男児

・障害名 発達障害

・障害と困難の内容

知的障害を伴う自閉症

【活動目的】

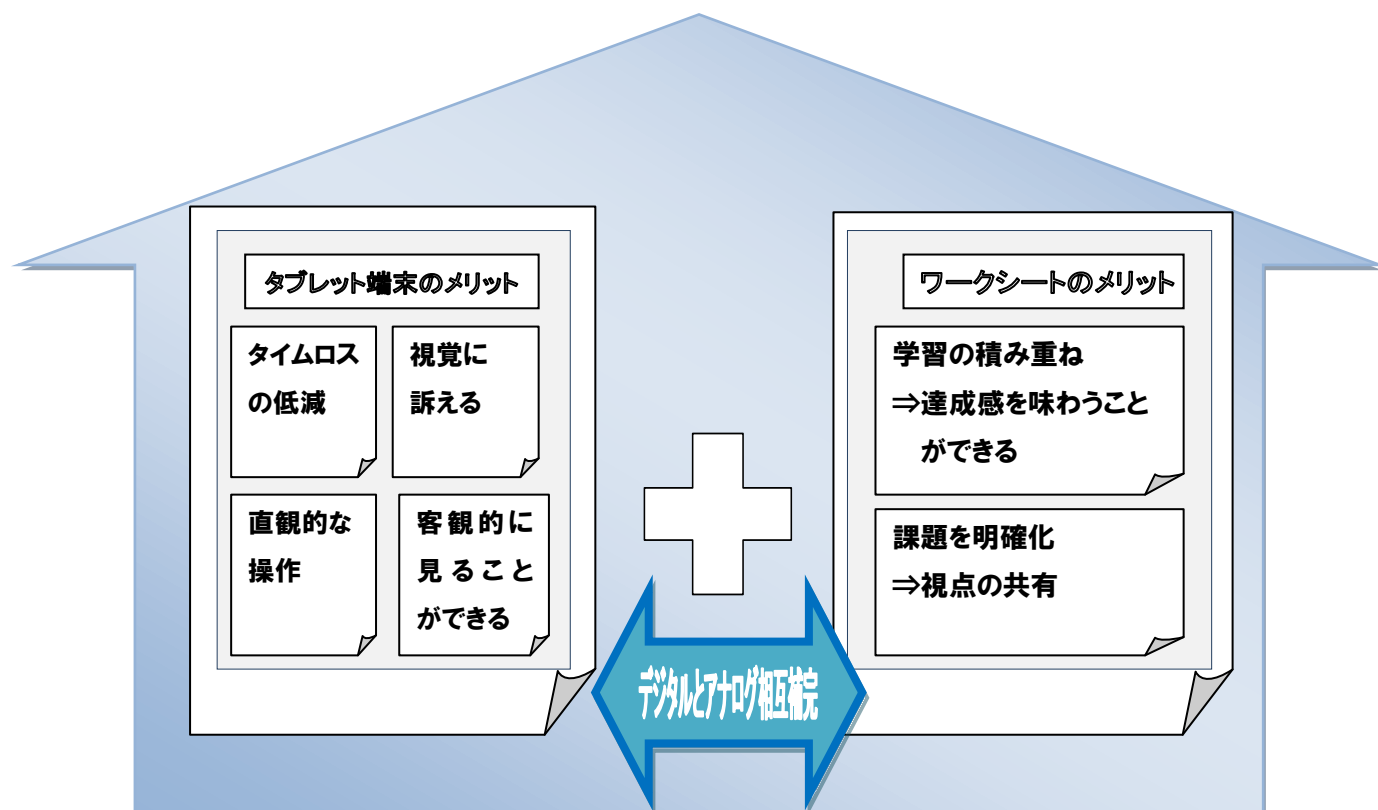
・当初のねらい

○「わかった」「できた」を増やして、自信や意欲を持って学習ができるようにする。(図1)

○新聞を書くことを通して、自分の思いや考えを伝える。

表現力が高まっている児童

- 収集・判断・・・タブレット端末を使って、適切な写真を撮る
- 表現・・・書いた内容を低学年(1～3年生)に伝える
- 処理・・・書く内容を明確にし、適切な文章を書く



ねがひ

- ① 「わかった」「できた」を増やして、自信や意欲を持って学習ができるようになってほしい。
- ② 新聞を発表したり、掲示したりすることで達成感を高めたい。

図1 支援の流れ

・実施期間

平成28年5月から平成29年1月下旬

・実施者

藤平 康太(研究採択者本人)

・実施者と対象児の関係

特別支援学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- 漢字の書きなど、一問一答形式の問題は好んでいる。
- 声かけや支援のない状況では、題意を読み取ることができず、一人で最後まで続けることは難しい。
- 生活ノートや連絡帳、漢字練習など書くことには抵抗は少ないが、思っていることや感じたことを文章にすることに苦手意識がある。

・活動の具体的内容

- 本実践では新聞作りを題材とした。その理由は4点以下に記載した。
- ①学校全体として行事のまとめやふりかえり活動などで取り組んでいるため、見通しを持って活動することができる。
- ②教室や廊下に掲示してあり、市内作品展の優秀賞などもある。これらの良い手本を常に目にすることができ、レイアウトや書き方などを見ることで「こんな風に書けばいいんだ」と安心感を持って取り組むことができる。(写真1)
- ③発表したり掲示したりした新聞を友だちや先生から褒めてもらった経験がある。発表の中で友だちの作品を見たり聞いたりすることで「僕もこうやって書いてみたいな」とさらなる意欲の向上につながると考えた。
- ④書いた新聞を順番に掲示することで以前の新聞と比較することができる。どのくらい書くことができるようになったかの変化を視覚的に理解することができ学習意欲が高まると考えた。



(写真1)新聞掲示

- ① まず興味を持たせるために、好きな新聞記事を学校で選んだ。電車や車、間違い探しに興味関心が強い。最初は好きなもの新聞として取り組み、書くことへのハードルを下げた。(写真2)



(写真2)好きなもの写真

- ② 行事やの場面ごとに iPad で写真や動画を撮影した。新聞を書く際に、写真や動画を見ることでその場面を想起しやすくするためである。iPad であれば「撮りためた写真からねらいにあった写真をすぐに準備できる」「動画だと場面を具体的に想起しやすい」などの利点があると考えたからである。

- ③ 書くときの流れは、場面ごとに1枚ずつスクロールして写真を見る。その時の様子を思い出し、つぶやきながら新聞に書くという作業を繰り返す。(写真3)

そう！そう！ミシンで縫うとき縫う速さを少し変えたんだよ！



(写真3)書いている様子

- ④ 完成した新聞をクラスの人に発表する。みんなに賞賛される場を設定することで、書くこと自体への苦手意識の減少や意欲の向上をねらいとしたものである。(写真4)



(写真4 発表している様子)

- ⑤ 報告会やふりかえりを行う。(1組に向けて)

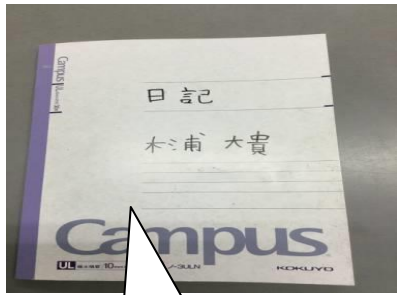
新聞を書いて終わりだけでなく、自分が「何をしたか」「どういう気持ちだったか」などを友だちに伝えることができた。(図1の表現の部分)そうすることで、達成感や充実感を味わうことができた。(写真5)



合同学習発表会するとき、緊張したけど、がんばったなあ〜。

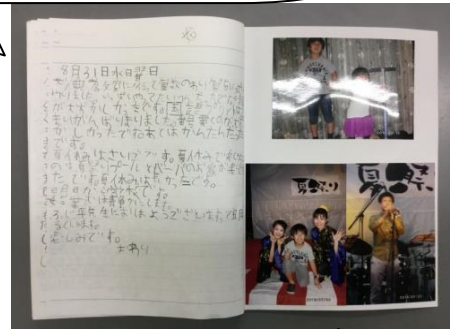
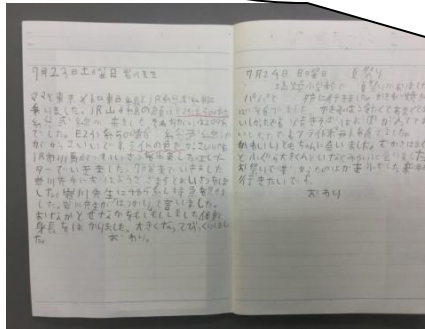
(写真5)報告会やふりかえりの様子

⑥ 夏休みの日記で取り組み(写真6)



7月23日から開始!

夏休み中の日記(7月23日~8月31日)1日1ページ書き、全部で62ページ続けることができた。

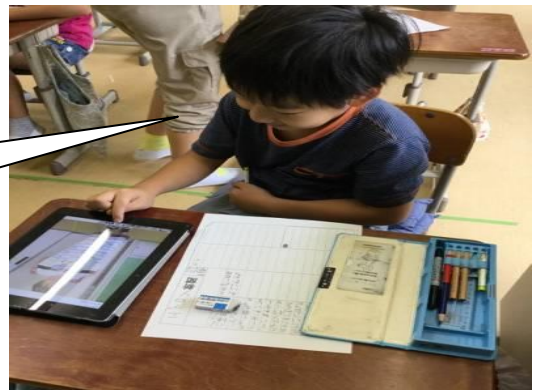


写真を貼って工夫しながら最後の1ページまで書くことができた。

(写真6)夏休みの日記で取り組み

⑦ 新聞でまとめる意識が少しずつ芽生え、最後まで間違えがないか確認することができるようになった。(写真7)

ipadの写真があると分かりやすいね。
あっ!ここ間違えた!
見直して良かったな~!



(写真7)間違えがないか確認をしている様子

・対象児の変化

○児童が進んで学習に取り組むことができたか次の2点で記録、分析を行った。(図2)

1. 教師による評価

ipad2台に基づく学習の仕方・授業場面、日常生活場面の参加観察

2. 児童による評価

新聞作りの「振り返り」や「感想」の記入

図2 変容を捉える方法

○ipadの写真や動画を見てふりかえりながら写真や動画を見ながら「ああ~これやったね!」「大玉送りの写真がいいな」とつぶやいていた。内容は「日付」「名前」「タイトル」「小見出し」「1番頑張ったこと」「家族が見に来てくれたこと」「感想」だった。また、大玉送りの写真を選ぶことができ、色塗りまで楽しみながら行うことができた。書いている途中に「先生、書けました。ここ見てください」と本人から確認があった。書き始めから書き終わりまでには18分だった。(写真8・写真9)



写真8 2016年5月24日
(想起によって書いた新聞)

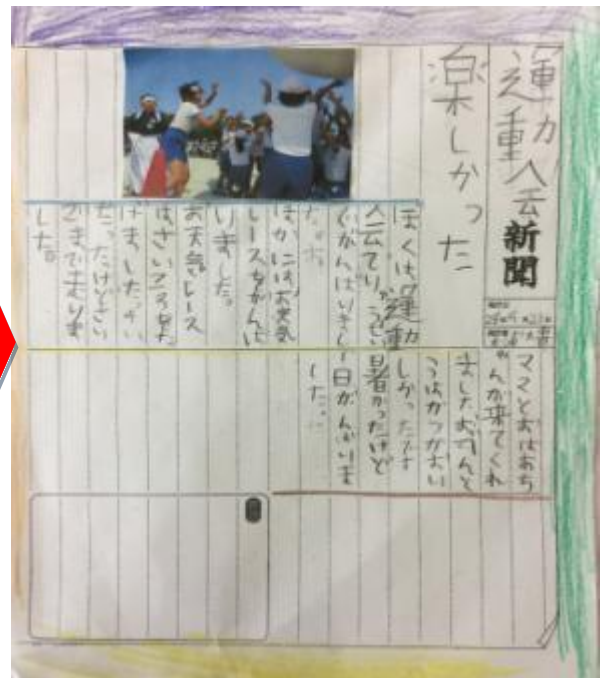


写真9 2016年5月27日
(ipad を参考に書いた新聞)

○6月18日の新聞では、文の数は9つで、事前と比較すると、大きくは変化していない。しかし、時系列に沿って「いつ、どこで、何をしたか、そのときの気持ち」などくわしく書くことができた。一緒に行った学校、泊まった部屋の号数、感想なども書くことができた。運動会新聞の写真では、自分が入っていないものを選択したが、今回は男子の集合写真を選択した。理由を聞いたところ、「みんなと泊まったことが初めてで、また来年も行きたいから」と話していた。(写真10・写真11)

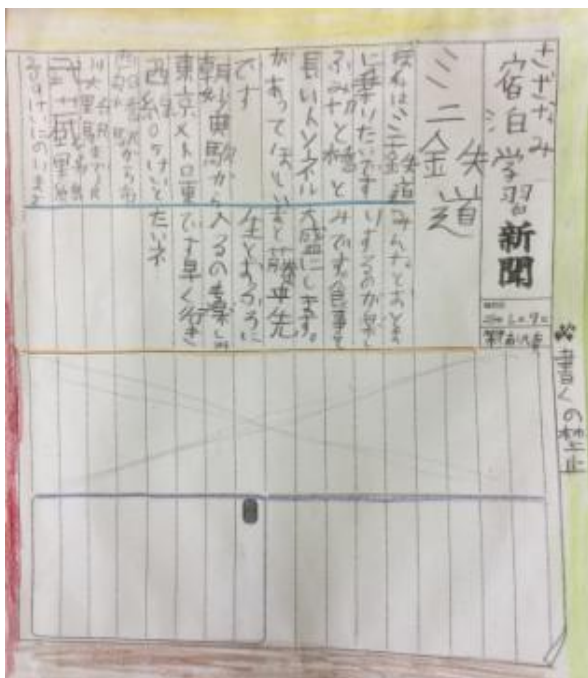


写真10 2016年6月7日
(宿泊学習事前)



写真11 2016年6月18日
(報告会をした後の、宿泊学習まとめ)

○9月21日の新聞では文の数は5つだった。初めて使うミシンだったが集中して取り組んでいた。主な内容は楽しかったこと、楽しみなことの2点だった。(写真12)

○10月21日の新聞では文の数は9つだった。4つしか増えていないが内容は「初めて取り組んだこと」「取り組んだ場所」「誰と一緒に作ったか」「お手伝いに来てくれた保護者の方」「ミシンとアイロンのどこが楽しかったか」「先生が写真を撮ってくれたこと」の5つに分けられていた。新聞のタイトルは、事前ではみんなのを参考に「エプロン新聞」と書いていたが、事後では好きなキャラクターの「スヌーピー」新聞と書くことができた。

事前では色塗りは「大丈夫です」と断っていたが事後新聞では自主的に色を塗ることができた。(写真13)

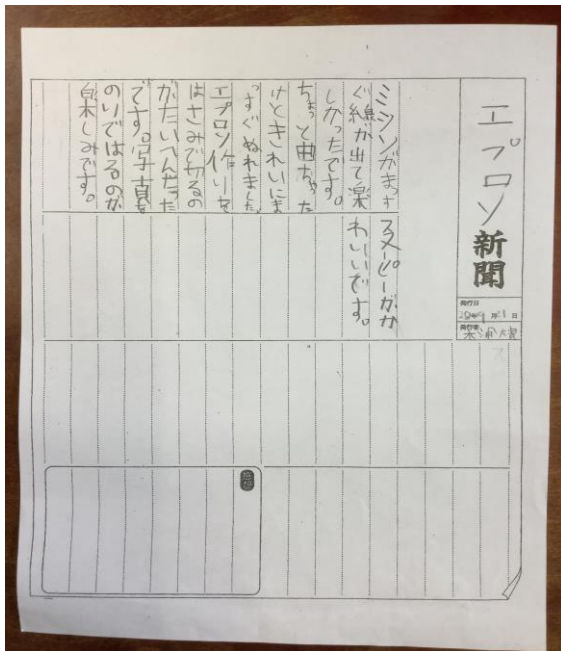


写真12 2016年9月21日
(家庭科新聞事前)

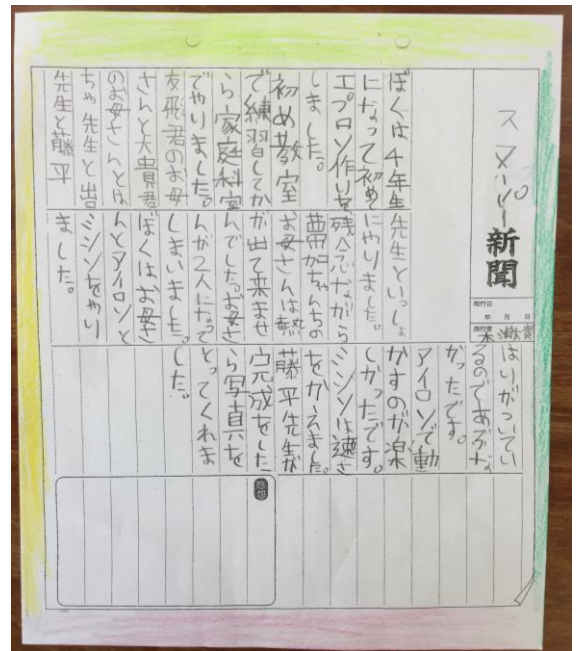
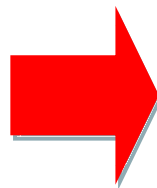


写真13 2016年10月21日
(家庭科新聞事後)

○12月6日の新聞では合同学習発表会新聞を書いた。全部で12文書くことができた。内容は「いつ」「どこで」「何をしたか」「誰が来てくれたか」「練習の時の様子」「本番が終わってからの気持ち」「見に来てくれた人への感謝の気持ち」「感想」「次に学校生活でがんばること」の9つのまとめりで書くことができていた。(写真14・15)



写真14 2016年12月3日
(市内合同学習発表会の様子)

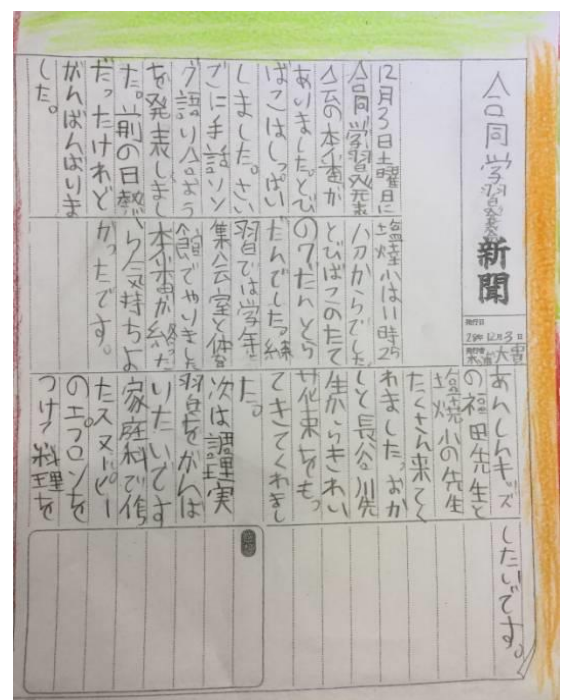


写真15 2016年12月6日
(合同学習発表会后)

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

○ipadによる視覚的支援(写真や動画を見て記憶を想起)によって書くことに対する“見通し”と“できた”という気持ちが相乗効果になって自信や意欲を持って学習できるようになった。

本人は、家庭でもタブレットを使用しているためタブレットを使うことが好きだった。漢字や計算のアプリを使うことが好きで、その気持ちを大切にしつつ、同じツールとして取り入れた。学校でipadを使いながら学習することで見通しが持てたことで、安心感を持ち、集中して学習に取り組むことができたと感じた。

最初は今まで何を書けばよいのだろうと迷っていたが、視覚的支援を行うことで本人の迷いが消えたと考えられる。
(写真16・17)

さらに、相手を意識させるために報告会やふりかえりの時間を設けた。友だちから拍手をもらったり褒めてもらったりしたことで充実感や達成感を味わい、「もっと新聞を書いてみたい」「みんなに話したい」とさらに意欲が向上したと考えられる。

今まで・・・



(写真16)困っている様子

ipadがあると・・・

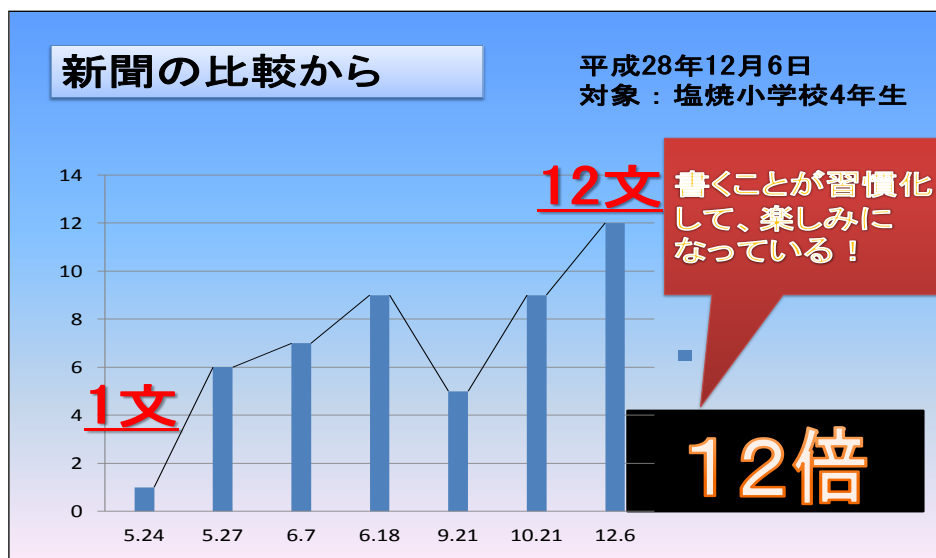


(写真17)見通しが持てた様子

あっ！
思い出した！
やっぱりipadだと使い方も分かりやすくていいな～！

・エビデンス(具体的数値など)

○下のグラフから、ほとんど右肩上がり形で文章の数が増えている。文の数だけでは、5月24日と12月6日を比較すると12倍と予想をはるかに上回る数字だった。(グラフ1)内容は毎回同じではなく、比較は難しいが、行事の終わりごとにまとめとして新聞を書くということが習慣化して楽しみになっていることが本人の発言からも分かった。



(グラフ1)文の数の比較

○下の表から比較した。今回は行事ごとのまとめとして新聞を作成した。新聞の同じ内容での事前事後を比較すると、文の数も内容も増えていることが分かる。しかし、行事と行事の間で時間が空いてしまうときもあった。そのため、6月20日から9月21日までは0.5倍と減少していることが分かる。(表1)なるべく間を開けずに継続的にipadを活用しながら指導をしていきたい。

日付	タイトル	文の数	文の数前回との比較	主な内容
5月24日(火)	未記入<事前>	1	なし	⑦
5月27日(金)	運動会<事後>	6	6倍	③④⑤⑦⑨
6月7日(火)	さざなみ宿泊学習<事前>	7	1.16倍	⑥⑩
6月20日(月)	宿泊学習<事後>	9	1.28倍	①②③④⑤⑥ ⑦⑨
9月21日(水)	エプロン<事前>	5	0.5倍	④⑧⑩
10月21日(金)	スヌーピー<事後>	9	1.8倍	②③④⑤⑥⑦ ⑨
12月6日(火)	合同学習発表会	12	1.3倍	① ③④⑤⑥ ⑧ ⑩

(表1)

※主な内容を10項目に分けた。

- ①日付②場所③誰が(誰と)④自分がしたこと⑤気持ち⑥好きなこと・もの⑦うまくできたこと⑧うまくできなかったこと
⑨感想⑩次に頑張ること